国際理解教育/開発教育　学習指導(活動)案

【実践者】

授業者氏名	末永　祐利	学校名	やたなか小中一貫校　大阪市立矢田小学校
教科(科目)・領域	社会科　総合　学級活動	対象学年(人数)	4年　1組(　19名)
実践年月日もしくは期間(時数)		2025年　10月中旬　～　11月初旬(9時間)	

【実践概要】

1. 単元名(活動名):　開催！やたなかフェスティバル！！

2. 実践する教科・領域
・社会科「受けつがれてきた祭りや行事」(5時間)
・総合(3時間)
・特別活動(1時間)

3. 学習領域

	1	2	3	4
A 多文化共生	文化理解	文化交流	多文化共生	
B グローバル社会	相互依存	情報化		
C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	

4. 単元の目標(評価規準を意識して設定)
・それぞれの祭りや行事の行動原理を捉え、それぞれの祭りや行事に込められた人々の願いについて考えることができる。(社会科)
・自分の住む地域やそれ以外の地域や国の祭りや行事に興味をもち、進んで調べようとすることができる。(総合・国際理解教育)
・自分たちの学級の思いや願いを話し合い、自分たちオリジナルの祭りを実現させようとしている。(学級活動)

5. 単元の評価規準

①知識・技能	それぞれの祭りについて、何時・どこで・だれが・どのように・何のためにするのかという行動原理を理解している。(社会科)
②思考・判断・表現	それぞれの祭りや行事について、人々の願いを考えることができる。(社会科) 学級の願いをもとに、自分たちのオリジナルの祭りについて考え、話し合うことができる。(学級活動)
③主体的に学習に取り組む態度	それぞれの国や地域の祭りや行事に興味をもつことができている。(総合・国際理解教育) それぞれの祭りや行事について興味をもち、主体的にその祭りについて理解しようとしている。(社会科)

6. 単元設定の理由・単元の意義

【単元設定の理由あるいは単元の意義】
　祭りや行事には必ず、何時・どこで・誰が・どのように・何のためにするかという行動原理がある。しかし、何のためにその祭りをしているのかを理解して祭りに参加している人は少ないように思える。児童も同様に祭り本来の意味を理解せずに参加していると予想される。その祭りに込められた意味や人々の思いを理解した上で祭りに参加することで、自分たちの住む地域への郷土愛を深めることができ、他の地域・国の祭りについても調べ比較することで、違いや共通点などを見つけ、祭りに込められた人々の思いに気づくことができる。
　単元最後には視点を学級に戻し、自分たちの学級の思いや願いからオリジナルの祭りを考え話し合うことで、自文化理解を図りたい。
【児童／生徒観】
　本校の地域には、伝統的な神社(鷹合神社)があり、夏には夏祭りが開催される。本学級からも多くの児童が神社に訪れ、夏祭りを楽しむ様子が伺える。
社会科学習アンケート(自主アンケート)
・「今までにお祭りに行ったことはありますか？」→ 「はい」 100%
・「お祭りが好きですか？」→ 「はい」 100%
　好きな理由　→ 「花火がきれいだから」、「屋台が楽しいから」など

・「お祭りは何のためにあると思いますか？」
　→ 「みんなで楽しむため」、「神様にお願い事をするため」、「わからない」など
　上記の回答結果から、児童はお祭りを楽しみにしていることが伺えるが、「何のためにするか」という本来のお祭りの意味を理解して参加している児童は少ない。
　本学級には、韓国朝鮮にルーツのある児童が3名、中国のルーツのある児童が3名在籍している。中国にルーツのある児童の内、1名は今年度転入してきた。その児童に対し、積極的に関わりをもち、助け合って学校生活を送る様子が見られた。また、本校には民族学級「チョソン友の会」・国際クラブ「ハピネスワールド」があり、外国にルーツのある児童が放課後の時間に活動している。外国にルーツがある児童が活動へ向かう際には、「頑張ってな！」と他の児童から応援する様子も見られる。課内実践でソンセンニムから韓国朝鮮の文化を教えていただいたときには、「もっと知りたい」という意欲が見られ、外国の文化をより知りたいという意欲的な様子も見られた。

【教材観】

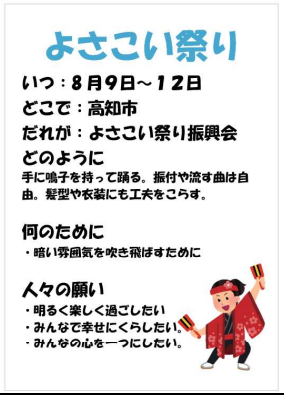
「受けつがれてきた祭りや行事」 わたしたちの大阪4年
　本教材には、大阪府で行われる日本三大祭りの一つである「天神祭」が取り上げられている。写真やデジタルコンテンツで祭りの実際の様子を見ることができ、自分たちが住む大阪府で行われる「天神祭」に興味・関心をもつことができる。また、「天神祭」はなぜ行われているのか、人々にはどんな思いがあるのかを祭りに携わる人たちの一日の様子やインタビューなどから読み取ることができる。祭り以外にも、大阪府に昔から伝わるものとして、「人形浄瑠璃」、「旧堺燈台」、「大仙（仁徳陵）古墳」、「淀川三十石船船歌」などの文化や遺産、文化財なども取り上げられており、受け継がれてきたものを感じることができる。先人たちの働きとして見ると、次の単元である「大和川のつけかえ」にも大きく関連する。

【指導観】

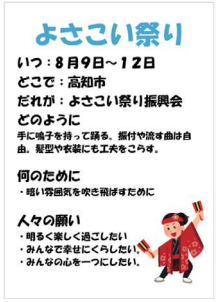
　まずは自分たちが住む地域の祭りや伝統行事として、「わたしたちの大阪４年」に記載されている「天神祭」について調べる。祭りや行事について調べるときには、行動原理である「いつ」・「どこで」・「誰が」・「どのように」・「何のために」に注目して調べることができるようにする。「何のために」祭りを行うかについては、祭りの内容から想像して考え、祭りの始まりや人々の願いについて気づくことができるようにする。「天神祭」の次は、より地域の身近な祭りである「鷹合神社」の祭りについて調べる。参加したことのある祭りについて調べることで、児童の学習意欲の向上を狙う。また地域の身近な祭りについて理解を深めることによって、郷土愛を深めることを狙う。ここでも「鷹合神社」の祭りの始まりや人々の願いを考えることができるようにする。
　次は視点を自分たちが住む地域から日本国内へと移し、資料やインターネットなどを参考にして興味が沸いた祭りや行事について調べる。調べる際は、より理解を深めるために2つ以上のソースを活用して調べるようにする。本学級の外国にルーツのある児童に関しては、それぞれのルーツのある国の祭りや行事について調べる。調べとことをもとにポスターを作成する。ポスターには、「いつ」・「どこで」・「だれが」・「どのように」祭りや行事が実施されているかを明確に書くようにする。
　また、視点を世界へと移し、世界の祭りや伝統行事についても調べ、興味をもつことができるようにする。ここでも、それぞれの相違点や共通点を整理し比較することで、人々の願いに着目させたい。
　最後は視点を学級に移し、自分たちの学級の願いについて話し合う。これまでの学習で、祭りや伝統行事には必ず人々の願いがあることを理解してきていると考えられる。自分たちの学級にはどんな願いがあるかを可視化することで、オリジナルの祭りを実現するために話し合う。話し合い、考えたオリジナルの祭りは、三学期に実現できるようにしたい。

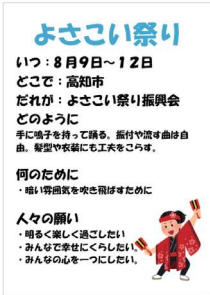
7. 単元計画（全9時間）

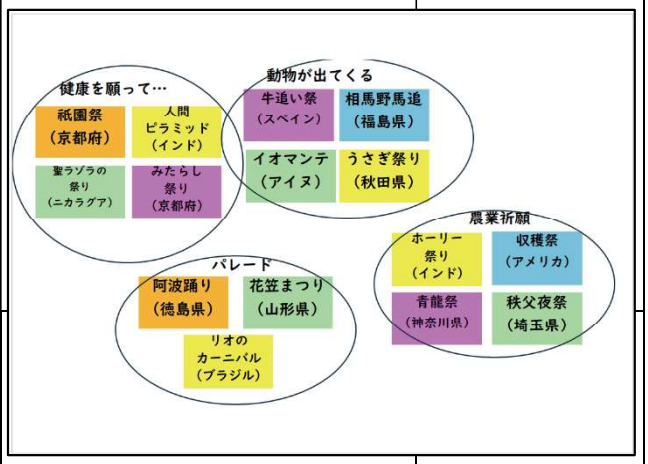
時間	ねらい	学習活動	資料など
1 2 3 （社会）	日本三大祭りである「天神祭」が大阪府で行われていることを知り、自分たちの住む地域に古くから伝わる祭りや伝統行事に関心をもち、調べることができる。	・「天神祭」について、教科書の資料やデジタルコンテンツなどから調べる。 ・「天神祭」を支える人たちの話をデジタルコンテンツで視聴し、人々の願いについて話し合う。	「わたしたちの大阪４年」
4 5 （社会）	自分たちの住む地域の身近な祭りである「鷹合神社」の祭りについて調べることができる。	・「鷹合神社」の祭りについて調べる。 ・なぜ、「鷹合神社」に込められた人々の願いについて考え、話し合う。	「鷹合神社」資料
6 7 （総合）	自分たちが住む地域以外の地域や国の祭りや行事に興味をもち、調べることができる。	・自分たちが住む地域以外の地域や国の祭りや行事について調べる。 ・調べたことをポスターにまとめる。	「わくわく発見！日本のお祭り」 「わくわく発見！世界のお祭り」

			株式会社 meiji HP「世界の食と文化<世界の行事・お祭りを比べてみよう」
8 (本時) (総合)	その祭りや行事に込められ人々の願いについて考えることができる。	・作成したポスターを使ってポスターセッションを行い、なぜこの祭りや行事が始まったのか、込められた人々の願いは何なのかについて考え、話し合う。	作成したポスター 
9 (特活)	自分たちの学級の願いについて話し合い、学級オリジナルの祭りや行事を実現させようとしている。	・自分たちの学級にはどんな願いがあるのかについて話し合う。 ・話し合った願いをもとに、どんな祭りができるかを話し合う。	

8. 本時の展開(概略)
本時のねらい:その祭りや行事に込められ人々の願いについて考えることができる。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	○前時までの学習を振り返る。 T「前回までの学習では、色々な国や地域の祭りや行事について調べ、ポスターを作りましたね」 C「世界にはたくさんの祭りや行事があり、似ているところや違うところがたくさんありました」 T「自分が調べた祭りや行事については、よく知ることができたと思います。今日の学習では、他の人が調べた祭りや行事について知り、そこに込められた人々の願いについて考えてみましょう」 ○学習課題に出会う。 T「今日の学習のめあては『世界の祭りや行事について知り、そこに込められた人々の願いについて考えよう』です。」 ・ワークシートに学習課題を書く。	・前時までに作ったポスターを掲示し、世界にはたくさんの祭りや行事があることを視覚的に分かりやすく提示する。 ・天神祭や鷹合神社の調べ学習をして話し合った人々の願いについて想起できるようにする。	・ポスター例 
本時の課題：世界の祭りや行事について知り、そこに込められた人々の願いについて考えよう			
展開1 (15分)	○ポスターセッションを行う。 T「今日はみんなが調べた祭りや行事について知るためにポスターセッションを行います。」 T「ポスターセッションでは、まずポスターを作った人から、『いつ』・『どこで』・『誰が』・『どのように』してその祭りや行事が行われているのかを紹介してください。」	・祭りや行事の行動原理である「いつ」・「どこで」・「誰が」・「どのように」・「何のために」に着目してポスターセッションを行うようにする。 ・「何のために」には、人々の願いが込められていることが多いので、	・作成したポスター

	C（例）「『よさこい祭り』は、8月9日～12日に高知市で、よさこい祭り振興会によって行われます。手に鳴子を持って踊り、振付や流す曲は自由です。髪型や衣装にも工夫をこらします」 T「次に、『何のために』この祭りや行事が行われているのか、聞き手に問いかけてください」 C（例）「よさこい祭りは何のためにしているのでしょうか？」 T「聞き手は、その祭りや行事が『何のために』行われているのか、人々の願いを考えて話し合ってください」 C・「健康に暮らすためかな？」（予想） ・「阿波踊りがご先祖様の供養だったから、徳島県と近いし、方法も似ているから、同じ意味じゃないかな？」（他の祭りと比較） T「話し合いの後に、ポスターを作った人から、人々の願いを教えてもらってください」 C（例）「実はよさこい祭りは、暗い雰囲気を吹き飛ばすためにされていて、明るくみんなで過ごしたい、みんなの心を一つにしたいなどの願いが込められています」 ・話し手以外は聞き手になる。一人当たりの時間は3分。 ・祭りや行事の内容から人々の願いについて話し合い、話し手から本来の人々の願いを聞く。 ○全体でポスターセッションを行う。 ・数名が全体の場でポスターセッションを行う。 ・全体で祭りや行事に込められた願いについて話し合う。	「何のために」は、聞き手に問いかけ、話し合うことで、その祭りや行事について深く考えることができるようにする。 ・話し合いでは、一問一答のようなクイズ形式にならないように、祭りや行事の内容にもとに想像し、「こうではないか？」と思ったことを意見として出すことができるようにする。 ・ポスターの「何のために」と「人々の願い」の部分を付箋で隠しておくよう指示をする。	
展開2 （15分）	○それぞれの祭りや行事を比較し、相違点や共通点について話し合う。 T「ポスターセッションでは、それぞれの祭りや行事に込められた人々の願いについて考え知ることができましたね」 T「それぞれの祭りや行事で似ているところはありましたか。祭りの内容や人々の願いを比べ、模造紙にまとめましょう」 ・付箋に自分が調べた祭りや行事の名前を書く。 ・全体で一枚の模造紙に付箋を貼り、共通する付箋を近くに貼る。 ・近くに貼られている付箋をペンで線を書いて囲む。 C・（例）「京都の祇園祭とインドの人間ピラミッドは国や方法は違うけど、健康を願って行うところは似ている」 ・（例）「山形の花笠まつりとリオのカーニバ、徳島県の阿波踊りは、パレードのような方法で似ている」	・祭りや行事の行動原理をもとにグルーピングをする。グルーピングをするときは、特に「どのように」や「何のために」に着目することで、国や地域が違っても、人々の願いやそれを表現する方法が共通する場合があることに気づかせたい。 ・付箋は何枚書いてもよいことにする。 ・人々の願いは共通していても、表現する方法が違う、表現する方法は似ていても、人々の願いが違うなど、祭りや行事の比較を可視化できるようにする。	

	・できた模造紙を見て、全体で話し合う。	（模造紙の例）  	
まとめ （10分）	○今日の学習について振り返る。 T「今日は、祭りや行事に込められた人々の願いに注目をしてたくさん話し合いましたが、気が付いたことや感じたことはありますか？」 ・ワークシートに今日の学習の振り返りを書く。 C「どの祭りにも人々の願いが込められていた」 C「祭りの方法は違うけど、願いが似ている祭りが世界にもあった」 C「願いは似ていても、方法が違う祭りがあった」 C「もっと世界の祭りや行事について調べてみたい」 ・全体で共有する。		

9. 評価基準に基づく本時の評価（評価方法）

アセスメントシートを用いて、学習前と学習後にアンケートを実施し、各項目の回答の変化から、児童の変容を見取る。また、調べ学習、相違点・共通点の整理等を行っているときの様子や、ワークシートの振り返りから評価する。

10. 学習方法および外部との連携

・学習計画以前に、鷹合神社の宮司の方と事前に連絡を取り合い、神社の歴史、祭りや伝統行事についてご教授いただく。
・教科書・書籍・インターネットなどから、それぞれの祭りや行事について調べる。
・祭りや行事に関する書籍を東住吉図書館などから借用する。

11. 学校内外で国際理解・授業実践を広める取り組み

（学校内）
・韓国朝鮮にルーツのある児童は、「チョソン友の会」、外国にルーツのある児童は、「ハピネスワールド」に在籍し、放課後の時間にそれぞれのルーツを大切にするために、言語や文化を中心に学び、表現している。
・上記の国際クラブに在籍していない児童も、ソンセンニムと韓国朝鮮の遊びや演奏などを通して、韓国朝鮮の文化を学んでいる。
・校内研修では、国際理解教育に関する研修会を開き、地球市民として物事を捉える重要性を広めた。
（学校外）
・大阪市小学校教育研究会国際理解教育部に所属し、研修担当として全市に向けた研修会を企画・運営した。

【自己評価】

12. 苦労した点

本学習を展開する前に、世界の祭りや行事に興味をもつことができるようにするために、運動会で世界中のダンスや踊りを取り入れた集団演技に取り組んだ。ダンスや踊りと祭りや行事には密接な関係があると考え、集団演技に取り入れようと考えた。2025年は「大阪関西万博」が実施されたこともあり、テーマを「やたなか万博2025」とし、文化の多様性を表現できる集団演技の構成を考えた。日本は徳島県の「阿波踊り」、韓国朝鮮は「カンガンスルレ」、フィリピンは「ティニクリン」、中国は「ウーロン」を取り入れた。最後は関西万博のテーマソングである、「この地球の続きを」の曲で、取り入れたすべてのダンスや踊りが入り混じるように踊る構成にした。祭りや行事を調べるときには、運動会の経験からこれらのダンスや踊りと関わりが深い祭りを調べようとする児童もいた。

興味をもった祭りや行事について調べ、調べたことをもとにポスターを作成するのに時間がかかった。ポスターセッションで使用するために文字を大きく書いたり、挿絵を入れたりするのに特に時間を要した。また調べて出てきた説明の文章をそのまま書くのではなく、自分で理解をしてから書くことを意識させたので、読めない漢字や言葉の

意味を質問されることが多かった。漢字の読みや言葉の意味まで調べ出すと更に時間がかかったため、指導者が応えたり調べたりすることが多かった。

13. 改善点

地域にある鷹合神社の祭りについて調べる際に、指導者が事前に準備した資料をもとに祭りについて調べたが、社会見学として児童と一緒に神社を訪れ、実際に神社の様子を見たり、宮司さんの話を実際に聞かせていただいたりしてもよかったのではないかと考える。そうすることで、より興味関心が湧き、深い学びに繋がったと考える。

本やタブレットを使って行動原理を中心に調べたが、児童が興味をもった祭りや行事に関する映像資料が少なかったため、表面的にしか調べることができなかった。理想は興味をもった祭りや行事の映像を見ることができることではあるが、前もって映像資料のある祭りや行事を厳選しておき、その中から興味のある祭りや行事を児童に選んでもらう方が現実的ではあると考える。

本時では、ポスターセッションの時間を一人当たり3分としていたが、2枚のポスターを3分で説明するのは厳しかったため、5分に延長した。それが原因で祭りや行事の仲間分けや振り返りの時間が短くなってしまった。ポスターセッションでは、より紹介したいポスターを1枚選び、1人当たりの時間は3分で行うのが適切であると考える。そうすると、祭りや行事の仲間分けや振り返りの時間を確保することができると考える。

本時で祭りや行事の仲間分けをしたとき、「何のために」に注目しすぎて、仲間分けをしづらそうにしている児童が多くいた。その結果、目的の仲間しか集まらなかった。次の時間にもう一度仲間分けをした際には、「どのように」にも注目させ、「食べ物が出てくる」や「パレード形式」などの仲間分けもでき、広い観点のもとで祭りや行事の仲間分けをすることができた。もっと仲間分けを深める場合は、ポスターセッションと時間を分け、更に「いつ」・「どこで」などの行動原理にも注目させた仲間分けをするとよいのではないかと考える。

本時の学習を通して、祭りや行事に込められた人々の願いを想像したときに、それぞれの願いの原点は人々のくらしの豊かさや平和につながるということが分かったが、学習活動の中で児童がそのことに気づくことができる発問をすることができなかった。次の学習の時間にはみんなで確認はしたが、適切なのは本時の学習の中で気づくことができることであると考える。

14. 成果が出た点

「天神祭」について調べるときに、行動原理をもとに調べたことで、次から調べる祭りや行事も行動原理を軸に調べることができ、主体的に調べ学習をすることができた。日本の祭りや行事と世界の祭りや行事を1つずつ選んで調べたが、「もっと調べたい」と3つ目、4つ目の祭りや行事を調べることができた児童もいる。学級全体で世界中の祭りや行事を調べたことで、今まで知らなかった祭りや行事に出会い、児童の関心が更に高まった。

本時ではポスターセッションの手順を細かく決めて行ったため、児童が迷うことなく自信をもって調べたことを説明することができた。また、話し手が「この祭りは何のために行われているでしょうか」と聞き手に問いかけたことで、ポスターセッションを対話的に進めることができた。「何のために」祭りや行事が行われているかについて考えるとき、自分が調べた祭りや行事と重ねて考えたり、他の行動原理をもとに考えたりと多角的な視点で人々の願いに迫ることができた。

第9時で学級オリジナルの祭りや行事について話し合った。

○祭りや行事の名前 「矢田小4年なかよし祭(さい)」
○いつ … 3学期 2月5日(木) ※学習参観
○どこで … 矢田小学校 ※詳しい場所は内容を話し合ってから決定
○だれが … 矢田小学校4年生のみんな
○どのように … 未定 ※3学期に話し合って決定
○何のために … もっと仲を深めるため
○みんなの願い … もっと仲を深めたい。みんなで楽しい祭りや行事にしたい。

みんなでオリジナルの祭りや行事について話し合ったとき、話し合う事柄の順を、①「みんなの願い」②「何のために」③祭りや行事の名前の順で話し合った。初めに「みんなの願い」を話し合うときは、学級目標である「敬天愛人」に立ち返って考えることができていた。「敬天愛人」には、「人を愛する」という意味があり、友だちに愛情を持って関わることを学級目標としていた。学級の現状を振り返ると、もっと仲を深める必要があるのではないかと言う意見がたくさん出た。そこから、「何のために」オリジナルの祭りや行事をするかが決定し、祭りや行事の名前が「矢田小4年なかよし祭」とすることになった。詳しい内容は3学期に話し合い、学習参観で保護者の方にも見ていただけたらと考えている。

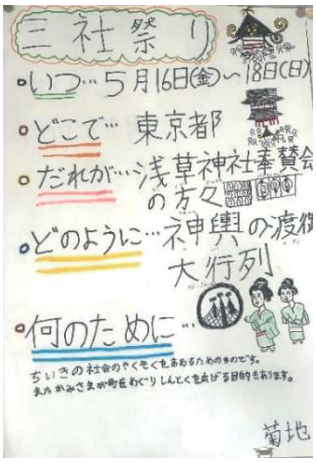
15. 学びの軌跡(児童生徒の反応・感想文・作文・ノートなど)

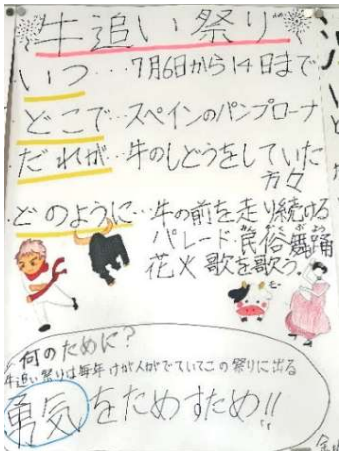
☆「これから日本や世界の祭りを調べていきます。どんな気持ちですか？」
・天神祭や鷹合祭りを調べていて、お祭りに興味をもったので、これから世界の祭りを調べるのが楽しみです。
・いろんなお祭りを調べたいという気持ちでいっぱいです。
・どんなことをお祭りでしているのかが気になる。世界の祭りでどんなことをしているのか調べるのが楽しみです。
・今日の勉強をしたことによってお祭りを深く知りたくなってきました。

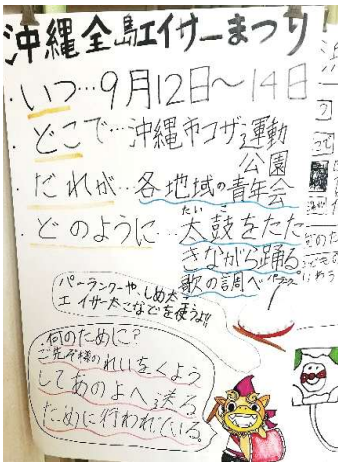
・まだ行ったことのないお祭りに行ってみたいです。

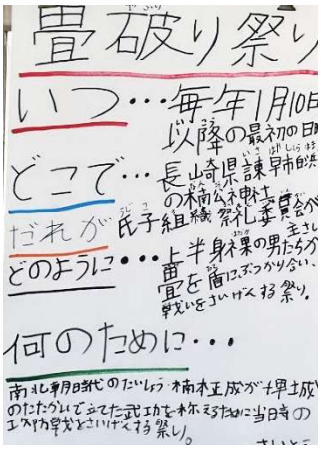
☆児童が調べた祭りや行事
〇日本の祭りや行事
・日吉大社山王祭（滋賀県）　・桜花祭（香川県）　・国分秋祭り（大阪府）　・長崎くんち（長崎県）
・花脊松上げ祭り（京都府）　・阿波踊り（徳島県）　・三社祭り（東京都）　・沖縄全島エイサー（沖縄県）
・畳破り祭り（長崎県）　・札幌雪祭り（北海道）　・浜松まつり（静岡県）　・唐津くんち（佐賀県）　・祇園祭（京都府）
・京都五山送り火（京都府）
〇世界の祭りや行事
・春節（中国）　・清明節（中国）　・ラ・トマティーナ（スペイン）　・クリスマス（ロシア）※一般的なクリスマスと相違点あり
・フォース・オブ・ジュライ（アメリカ）　・国家記念日（マレーシア）　・牛追い祭り（スペイン）　・マースレニツァ（ロシア）
・スイカ祭り（オーストラリア）　・死者の日（メキシコ）　・ホーリー祭り（インド）

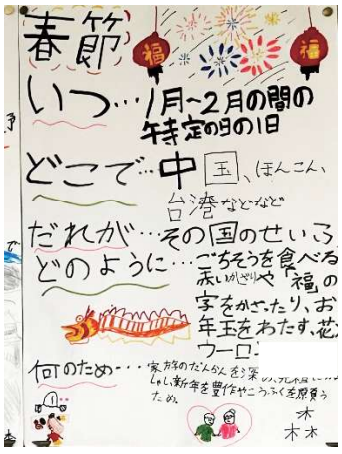
☆児童が作成したポスター

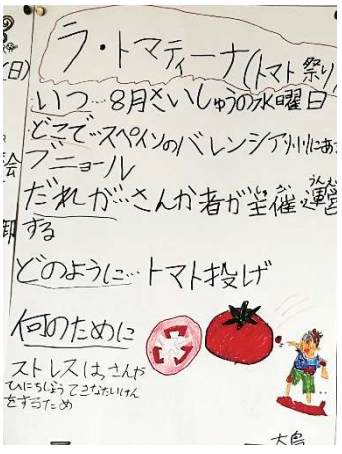












☆祭りや行事の仲間分けをした模造紙

☆学習を終えての振り返り
・世界の祭りや行事を調べて、知らなかったお祭りを知ることができた。もっと調べてみたい気持ちになった。
・友だちが調べているお祭りがおもしろそうだったので、今度調べてみようと思います。
・世界にはいろいろな祭りや行事があることが分かった。まだまだ知らない祭りや行事も知っていきたい。
・祭りや行事には必ず人々の願いが込められていたことに気づけて良かった。
・クラスのオリジナルのお祭りを考えた。3学期に実現させるのが楽しみです。

16. 授業者による自由記述

夏の研修を経て実践を組み立てたが、組み立てるときには「汎用性」を意識した。国際理解教育の実践を考えるときには、「教科統合型」・「教科融合型」・「教科超越型」があることをご教授いただき、今回の実践は、社会科・総合・学級活動の3つの教科の中で行う、「教科融合型」で行った。実践の導入を社会科の教科書の内容から行い、発展的な学習として総合の時間を使い、最後は自分たちの学級に視点を戻した。3つの教科・領域にまたがっての実践となったが、実践を振り返ると、汎用性の高い実践になったのではないかと考える。各校でこの実践をする場合は、教科書の祭りや行事の内容から入り、各校の地域や身近な祭りや行事を調べ、日本や世界の祭りや行事を調べていくとよい。また単元の最後には視点を自分たちの学級に戻し、自分たちにも思いや願いがあることから、オリジナルの祭りや行事を考えるとよい。

【参考資料】

① 「シリーズ比較文学への誘い 祭りから読み解く世界」 山田孝子・小西賢吾 編 英明企画編集 2018年
② 「わくわく発見！日本のお祭り」 竹永絵里:画 河出書房新社 2017年
③ 「わくわく発見！世界のお祭り」 竹永絵里:画 河出書房新社 2017年
④ 株式会社 meiji HP「世界の食と文化<世界の行事・お祭りを比べてみよう」
⑤ 鷹合神社 HP https://www2s.biglobe.ne.jp/~falconry/
⑥ 東住吉区 HP (045 鷹合神社) https://www.city.osaka.lg.jp/higashisumiyoshi/page/0000033863.html
⑦ 鷹合神社 資料(宮司さんからのお話)
⑧ 「わたしたちの大阪4年」 日本文教出版
⑨ 「新しい社会4」 東京書籍